

渡邊英心 先生 略歴

松庵寺副住職、音楽家。「テラカフェ」オーナー。

1985年秋田県三種町松庵寺の長男として生まれる。

東京学芸大学在学中「サンバ」に出会いラテン音楽に魅了され、2010年ブラジルに渡り、僧侶として海外布教のかたわら音楽修行の日々を送る。

その後キューバ、ジャマイカでの音楽修行の旅を経て秋田に帰郷。パーカッショニストとしてフジロックフェスティバルなど国内を代表する大型フェスにも多数出演。

2014年、秋田で「英心 & The Meditationalies」を結成。1stアルバムが『ミュージックマガジン』誌ベストアルバム2015レゲエ日本部門第1位を獲得。

NHK「おはよう日本」出演、『月刊住職』誌や朝日新聞「天声人語」をにぎわせるなど、ワールドミュージック界、仏教界からも高い評価を受けている。

コロナ禍に制作した動画「仏具でボブ・マーリー」はSNSで世界中に拡散され、レゲエの神様ボブ・マーリーの公式アカウントにもリツイートされるほどに。

唯一無二の秋田産仏教的ラテン音楽を作っては歌いつづけている。



*今回講演会・演奏会『輝く今を一緒に生きよう!』について



田舎のお寺の長男として生まれた私。「ここにはないどこか」「私にはない何か」を求め、憧れの南米を旅しました。現地であう人たちが自分の住む場所で生き生きと暮らしている様を目の当たりにして、自分の内側にあるルーツと、自分を育ててくれた地元にもともとある大切なものに気づくことができました。今は故郷に住みながら、守るべきものを守り、変わっていくことを楽しみながら新しい挑戦を続けています。等身大の「暮らしの楽しみ方」を歌を交えてお話ししたいと思います。



「市民おもしろ塾」150回の軌跡(抜粋)

2016年6月18日、高校の同期生が古希を期に、郷里をさらに活性化し、市民全体をより元気にすることに賛同し集い設立。現在に至る。

※肩書きは、その当時のものです

- 第1回 2016年9月24日(土)
『心の健康、いやしの音楽』納谷晋一(元中学校教員)
- 第25回 2017年9月30日(土)
『フードバンクを考える』
遠藤昌男(中央ライフ・サポートセンター代表)
藤井真貴子(浄明寺フードバンク代表)
- 第50回 2018年11月10日(土)
『広がるボランティア・NPOの豊かな世界』
小関隆志(明治大学准教授)
『今までの地域活動とこれからの夢』
能登祐子(能代市自治会連合協議会会長)



- 第75回 2019年12月21日(土)
『新視点 秋田戊辰戦争と能代』
畑中康博(秋田県生涯学習課学芸主事)
- 第100回 2021年7月3日(土)・4日(日)
『マルヒコプロジェクトと若者たち』
湊 哲一(ミナトファニチャー代表、合同会社のしろ家守舎代表)
『極め付き?川柳10句と能代への想い』
あゆかわのぼる(詩人、エッセイスト、川柳評論家)
『波瀾万丈の人生と『踊る。秋田』への情熱』
山川三太(『踊る。秋田』フェスティバルディレクター)

記念演奏会 太田徹&THE CATWALK JAZZ BAND
7月4日 納谷嘉彦スペシャルビデオレター(ジャズピアニスト)

- 第125回 2023年3月11日(土)
『私の人生の歩みと地域への想い』
武田英文(秋田県林業育成協会会長、丸上木材株式会社社長)

